

『風と共に去りぬ』～ベストセラーの要因～

書

広瀬美香

『風と共に去りぬ』は、大きく分けて2つのメディアがある。女流作家マーガレット・ミッチェル著の原作本と、その映画版である。より多くの人に親しまれているのは、おそらく後者の方だろう。映画化されたことで、世界中の人々に広く知られ、数多くの人々に愛されるようになった。日本でも大人気を誇りその名を知らない者はいないほどである。物語の全容を知らなくとも、舞台が南北戦争当時であること、ヒロインのスカーレット・オハラ、彼女に独自の方法を用いて求愛するレット・バトラーの存在は、あまりにも有名である。この二人が炎をバックに口づけを交わそうとしているイラストは、誰もが一度は目にしたことがあるのではないだろうか。

私は、ゼミに入って『風と共に去りぬ』を研究するまでは、映画でのほんの有名なシーンしか知識としてなかった。3年生の内に、シナリオ集にも全て目を通し、映画の流れをつかんだ。そして自分の中では映画のラストがどうも煮え切らないような印象を与えられた。ゼミの時間に各シーンでの要点などを話し合ってきたが、原作を全て読み終えたのは4年生に入ってからだった。さすが小説だけあって描写がこと細かい。映画では大幅にけずられているストーリー、キャラクターなどが、原作では密接に関わって全体を面白くしている。そしてラストに至るまで、実に納得のいく展開であった。原作を読むと、映画の方は呆気なく物足りなく感じるかもしれない。しかし、原作を読んで初めて、映画の良さを知ったのも事実である。数多くある原作の名場面を厳選し、実に巧みにそれらをつないでいる。最後まできれいにまとめて終わらせている。エンターテインメントとしては素晴らしい作品であったと、そこで初めて気づいたのである。考えさせられる原作と楽しませる映画。その二つがあったからこそ『風と共に去りぬ』がここまで人々に愛されるようになったのだろう。小説と映画という異なったメディアだが、双方とも感動を呼び、多くの人々の胸に残っている。そのような題材で、1年半学べたことを本当に嬉しく思う。

(指導教員 中村 敦志)